

一一一〇

【善性寺文書】 石川郡
本庄四十万村之内、大仙寺敷地・同山林等之事、
慶道場、任眞幸御寄進狀之旨、永不可有相違者也。仍
狀如件。
（富樫種泰）
法

在判
（富樫種泰）

永正元年三月五日
（明應八年九月廿九日の條參照。富樫種泰は足利義
種の一字を受けたるものなるが故に、當時は諱を異
にせるなるべきも明らかならず。）

【善性寺文書】

一一一一

大仙寺分山屋敷之事、爲御屋形被仰付上者、更不可有
相違者也。仍執達如件。

永正貳

五月廿五日

高次 在判

法慶入道殿

五月三日。足利義澄、安富盛憲の山城勸修寺門
跡領江沼郡郡家莊代官職を競望するを停め、同

寺に直務せしむ。

山城

一一一二

【勸修寺文書】
勸修寺門跡領加賀國能美郡郡家莊事、於安富新右衛門尉
代官職競望者弃捐畢、永爲御直務之地可令管領給之
狀如件。
（江沼）
（盛憲）

永正元年五月三日

參議左近衛權中將源朝臣 在判
（足利義澄）

十二月廿八日。珠洲郡高座宮別當高勝寺、同寺
領下地の指出を注す。

一一一三

【須須神社文書】 珠洲郡

高勝寺下地指出之事

五百廿刈 皆免

本堂佛供燈明田

九百七十刈 皆免

妙成就院佛供燈明田

百刈 皆免

同堂往生講燈明田

百刈 皆免

釋迦堂下地

五十刈 皆免

神宮寺下地

五十刈 皆免

觀音堂下地

五十刈 皆免 正月七日修正田

二千七百刈 皆免 十貳坊下地

二百刈 皆免 學頭坊下地

二百刈 皆免 寶珠院下地

二百刈 皆免 增長坊持佛堂下地

公方より寺中への下物

六斗六升六合 十一月臨時祭下物米

以上

永正元年十二月廿八日

永正二年 乙丑 紀元二一六五

四月廿三日。幕府、加賀守護富樫種泰をして、
安富盛憲の山城勸修寺門跡領江沼郡郡家莊に狼
藉するを停め、同門跡雜掌に之を交付せしむ。

【勸修寺文書】 山城

一一一四

勸修寺門跡領加州郡家莊事、安富新右衛門尉代官職競望
之條被弃捐之、被成永代直務御判已來、度々御成敗之

處違亂未休。殊三月十六日以謀書號御下知、於國及噉

々沙汰、剩自門主雜掌注進之使者令失生涯云々。前代
未聞之次第也。不可不誠之。不日退彼狼藉、如元沙汰
付御門跡雜掌、被致忠節者可爲神妙。若有違背之輩者
可被處罪科之由、被仰出候也。仍執達如件。

永正貳四月廿三日

賴亮 在判
（飯尾）
行房 在判

富樫次郎殿

七月十二日。長次、赤尾藤次郎に、山城北野社領
江沼郡福田莊領家方年貢米の内を交付せしむ。

【北野神社家條々引付】

一一一五

袖判

預ル米之事

合參百八拾伍石者

右件米者、加州福田庄領家方以御年貢之内、從永正廿年
限來乙亥年拾壹ヶ年之間、毎年參拾伍石宛分、赤尾藤次郎
方無懈怠可被渡之者也。然者於國雖有損免之事、被